



EDF WAS AWARDED
"NGO OF THE YEAR 2012"



大切な支援者・協力者の皆様へ

2月～3月は5月からの進学に向かって試験や準備でタイの生徒たちにとって最も大事な時期です。同時に、EDFの活動もこの時期には、学校から生徒たちの奨学金申請書を受け取り、その資料に基づき4月に入ると奨学金資格のある学生たちを選定をして5月は新規の支援者からの奨学金の適用を行います。

この数十年にわたり、タイの社会では離婚、お年寄りに押し付けられた子どもたちという崩壊家庭が未だに深刻な問題です。特にタイの貧しい農村では、大都会とは違い、離婚率が登録されていないためそのような地域にどれぐらいの統計があるか測定できず正式な数字は把握できません。毎年学校を通して送付してもらっている奨学金申請書から学生の状況をチェックしてみるとこの数年は祖父母に押し付けられた子どもたちの人数は減っていません。経済発展と共に、物価も高くなり、生活のためには大都会に出稼ぎに行くしかありません。祖父母と置かれた自分の子どもに仕送りをしています、自分自身も大変な事情で子どもに会いに帰れない親達は少なくありません。

平均として東北地方の一世帯にあたり65歳～85歳のお年寄りの多くは2人～5人の孫の面倒を見なければならぬという姿がよく見られます。しかし、身体的な問題で仕事が十分出来ないことが多いです。日常生活を送るために一番大事なのは食べるためのお金を稼ぐことです。このように大変な生活に耐えられない子どもたちは学校をやめて単純労働者の市場に身を置かざるを得ません。

今回ご紹介する、ヤソーン県に在住する12歳のターンちゃんの話は、働けなくなった祖母の面倒を見ながら家計を支えるために毎日働かなければならない頑張っている子の実態です。

このような子どもたちにとって「不足」というのは金銭的だけではなく将来の明るい道を開かせる「機会」と「希望」そして、「教育」の不足は終りなく、貧困の連鎖が大きく横たわっているのです。今年の新学期に間に合わせるための2013年度の奨学金募集の締切は6月30日までです。一人でも多くの子どもたちに勉強の機会を与えることができるよう皆様の暖かいご支援のご検討をお願い申し上げます。



サンペット ニンラット
代表取締役(専務理事)

80歳代の祖母のために毎日頑張っている小6の女子



タンヤー・ニッタヤワン（愛称はターン）は、生まれた時から、両親の顔を知らずに育ちました。ターンは12歳の女の子で、ヤソトーン県コーワン郡バーンラオノイ校に通う小学6年生です。彼女は、80歳を超えた祖母と、同じ学校に通う中学2年生の14歳のお兄さんと一緒に暮らしています。

これまで一家の家計を支えてきた祖母は、バイクが交通事故にあって転倒し、祖母は脚を骨折してしまったのです。脚は元通りには

動かなくてまた常に痛みがあり、外出することが難しくなりました。そして、二人の孫を養うために働きに出ることも出来なくなりました。祖母は家で寝ていることが多くなり、代わって、孫が祖母の面倒をみるようになったのです。

12歳のターンは、毎日、午前2時に起きます。近所に住む、タイのお菓子を作って販売する女性商人のお手伝いをするためです。ターンは、材料を混ぜる仕事から、それを火にかけて混ぜ合わせ、お菓子の形にして袋に詰めるまでの一連の工程をこなします。このように午前7時まで働いて、それから家に戻って水浴びをし、身支度を整えて学校に行くのです。収入は、その女性商人の売上によって変わりますが、平均すると一日、わずかに30-50バーツにしかなりません。この他にも、学校が終わってからは、あるいは土日に、青ネギを収穫する仕事をします。こちら1回につき15-20バーツと、わずかなお金しか稼ぐことができません。ターンのお兄さんも、家計を支えるもう一人の働き手です。お兄さんは、水を汲み上げる車を運転して、水田に水を送る仕事をしていますが、この仕事も一回当たり、村人からわずか20バーツをもらえるだけなのです。

女性商人がお菓子を作らない日は、ターンの家族は食べ物を買うお金がなくなってしまい、食事を我慢しなければなりません。このようなことが、度々あります。ターンは、つ

らいけれども、どうしていいのかわからないので、我慢するしかないと言っています。でも、ありがたいことに、ターンがお手伝いをしているお菓子の女性商人は、時々、朝食や夕食を食べさせてくれます。学校の先生も、ターンとお兄さんに、時々、食事代を援助したり、学校から支給されない洋服などについては、寄付を集めて、二人にあげるようにしています。

ターンは自分のことを次のように話しています。「私は、国語の勉強が大好きで、国語の成績が一番いいです。次に好きなのは理科です。将来は何になりたいのか、まだわかりません。今はただ、中学校に進学して、仕事をしてお金も稼いで、毎日ご飯を食べることが出来るようになります。私は、お婆さんのことがとても可哀想です。私とお兄さんは、時々、お婆さんのために、ご飯を買うことが出来ないからです。でも私は、お婆さんが大好きなので、くじけないで、これからも頑張ります。私は、高等教育を受けて、たくさん給料がもらえる仕事に就きたいです。これまで私を育ててくれたお婆さんに恩返しをしたいのです。もし、奨学金がもらえるなら、私はそれを大切に、本当に必要なものにしか使わないでしょう。そして、そのお金を進学するためにとっておきたいのです。」

ニュース・イベント



「ほほえみの会」のイサーン訪問

2013年1月16-19日、日本の山梨県にあるダルニー奨学金の連絡会の一つ「ほほえみの会」の代表の方をイサーン地方の学校にご案内しました。当会の現在の奨学生がどのように学校で勉強しているのかを実際にご覧いただくためナコンラチャーチャーマー県のノンワータダム校にご案内した後、現在ノンカイ県にいる大学生の一人（元奨学生）の家も訪問し、この元奨学生のこれからの進路についての話をしました。また、ノンカイ県から友好橋を渡り、首都のビエンチャンにあるEDF-Laosの事務局の活動を学ぶために訪問しました。この旅行で経験して戴いたことを、ご帰国後、山梨県内の人々を初め多くの方々に、タイの貧しい家庭の子どもの実状を理解していただき、今後一層のご支援に繋がって戴ければと期待しています。



バンコク富山県人会のご支援提供

2013年2月18日 — バンコク富山県人会の会長を任意している川瀬高秋様(左手)より32,460バーツのご寄付金を戴きました。今回の暖かいご支援は会員の皆様の年度のゴルフコンペで集められたものです。これは今年中学校進学する子どもたちに奨学金で提供します。



新川崎ロータリークラブのコラート県での奨学金寄贈式

2013年3月11日 — 日本の新川崎ロータリークラブの会長の手塚文男氏は5名の会員と一緒にナコンラチャーチャーマー県バクチョン郡のニコムサーントンエンラクタコン第4校を訪問。5月に中学校1年生になる15名への奨学金(150,000バーツ)寄贈式が行われました。その後、1ヶ所の奨学生の家庭も訪問しました。



EDF
The Education for Development Foundation
มูลนิธิเพื่อการพัฒนาเพื่อมนุษย์

The Education for Development Foundation (EDF)
50, Kasetsart University Alumni Bldg., Phaholyothin Rd., Ladyao:
Jatujak, Bangkok 10900
Tel. 0-2579-9209-11 (タイ語) 0-2942-8538 (日本語) Fax. 0-2940-5266
Email: public@edfthai.org URL: www.edfthai.org/jp

日本でのお問い合わせ：一般財団法人 民際センター
〒162-0081 新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F
TEL: 03-6457-5782 FAX: 03-6457-5783
Email: info@minsai.org URL: www.minsai.org